

連載

CAMA試験合格者の声



文＝横山 夏来 株式会社バスコ 企業風土刷新本部
text by Natsuki YOKOYAMA

1. はじめに

私は、2020年1月から2022年3月まで（一社）日本アセットマネジメント協会の事務局へ出向したことをきっかけに、出向開始の少し前である2019年11月にCAMA試験を、出向期間中である2021年にJAAM認定アセットマネージャー（JCAM）資格試験を受験し、2つの資格を得ることができました。

今回は2つの資格試験について、経験をご紹介できればと思います。

2. アセットマネジメントとの出会い

私が初めてアセットマネジメントという言葉と出会ったのは、

2019年9月中旬、日本アセットマネジメント協会事務局への出向を打診されたときでした。それまでは都市計画のコンサルタント部門に長く勤めた後、本社企画部に在籍していたため、維持管理等のアセットマネジメントに関連する業務については、自分の業務とは直接関係する機会がありませんでした。そんな中、JAAM事務局へ出向することが決まり、急遽、準備期間約2ヶ月で、11月に実施されるCAMA試験を受験することになりました。当時は「まず受験することが大事だから受からなくても気にしないで」と言っていたきながらも、「出向する以

上は受からなければ…！」と感じたことをよく覚えています。

そうして私は、アセットの「ア」の字も知らないまま、アセットマネジメントという奥深い世界の扉を開くことになりました。

3. CAMAの試験勉強

CAMA試験の試験勉強は、とにかくJIS Q 55000シリーズを理解することに努めました。

しかしながら、規格の文章は本当に読みづらく、「本質的に何を言おうとしている文章なのか」を理解することは非常に難易度の高いことでした。

そこで、まずは、各箇条の番号

とタイトル、そして主要な用語について頭に叩き込むことにしました。その中で特に意識したことは、用語と用途の関係性です。初めて耳にする用語が多かったため、用語そのものを覚えることはもちろんですが、それらの用語同士がどのように関連しているのか、主語、目的は何なのか、といったことを意識しながら理解に努めました。そして、理解したつもりでもなかなか頭に入っていないため、読み上げながらひたすら裏紙に書きながら、口と手と文字から頭に入れていくことをしました。

また、規格の内容の理解については、事前対策講習会を受講したことが大きかったです。講習会は、量も多く、スピードも速かったため正直メモを取るだけでも必死でしたが、やはり一人で文字を追っているだけでは理解できていなかった部分や行間の説明をいただけたことで、規格をどう読めばよいのか学ぶことができました。

しかしながら、特に苦労したのは試験のテキストの一つである「ランドスケープ」で多く登場するプラントメンテナンス関係の用語でした。基本的な知識が足りていないため、その用語がどのようなシーンで何のために使われているかを理解できておらず、用語そのものは覚えていても問題文の意図が理解できず、覚えた知識があ

まり試験の役に立たなかったことを覚えています。試験後には、やはり用語の説明書きを覚えるだけでは足りないのだと痛感しました。

短い試験勉強の中ではアセットマネジメントの本質的な内容を十分に理解できてはいなかったと思いますが、とにかく1発で合格したい一心で、各箇条のタイトルや重要な要素間の関係の図等、可能な限りの知識を頭に詰め込んで試験に臨みました。

試験当日は、想定していた以上に問題文を理解するのに苦労しました。やはり、元が英文であることもあり、その設問で問われていることが何なのかがわかりづらく、回答しながら、この設問の意図は本当にこの解釈であるのだろうか…と不安になる問題が多々ありました。問題文がわかりづらい中では、用語の意味や使われ方をしっかり理解できているか、ということはとても重要なことだと感じました。

幸運なことに試験はなんとか合格することができましたが、自信をもって回答できなかった問題も多くあり、合格という結果が出た瞬間に安堵と喜びを感じた一方で、まだアセットマネジメントを十分に理解できていないな、ということも実感しました。

4. JCAMの試験勉強

JAAM認定アセットマネージャー資格試験は、2021年にJAAMが新設したもので、当時、私は事務局として問題作成以外の多くのことに携わる立場でした。そのため、JAAM事務局の業務を通して、受験者へどのような素質、能力を求めているかを理解する機会や、JAAMが実施するセミナーを多く受講する機会は、他の受験者の方に比べ多かったかもしれません。

JCAMの試験問題は、選択問題、論文、面接から構成されていますが、選択問題は出題範囲が明確にされているため、非常に勉強がしやすい内容でした。

一方、論文試験、面接試験に関しては、知識だけでは簡単に合格できない内容でした。規格の内容が頭に入っていたとしても、それをいかに実務に落とし込んで理解できているかが問われるものであるため、対象とするアセットは何か、アセットオーナーは誰なのか、またアセットの価値を高めるためには何が必要なのか、目的、計画、戦略等、様々な視点での事前準備が非常に重要となります。

私自身も事前に自分の業務に落とし込んで整理をしたつもりでしたが、面接試験での質疑を受ける中で、十分に理解できていなかっ

たことに気づかされることがありました。

大きな気づきとなったのは、自分の考えが「品質マネジメント」にとどまっていた、ということでした。面接での私の発言内容は、「アセットの価値を高めること」ではなく、「業務の品質を上げることを」念頭においたものになっていたと思います。それでも、面接官がアセットマネジメントに軸を置いた質問を繰り返し出してくださったため、面接試験の中で、また、試験終了後の振り返りの中で、さらにアセットマネジメントについての理解を深められたと感じています。

JCAM 資格試験は、アセットマネジメント基盤となる基本的な知識を身に着けるとともに、アセットマネジメントの考え方を、自分の業務にどのように活かすことができるか、具体的に考える良いきっかけとなりました。

5. 現業務に生きるアセットマネジメント

出向を終え、現在は、よりよい企業風土に向けた組織開発に組織む部署に所属しています。一見、アセットマネジメントからは大き

く離れてしまったようにみえますが、思わぬところで「これ JIS Q 55001 のあの箇条に書いてあったことだな」と思い出すことがあります。

例えば、現状の問題点を整理するワークショップで意見を出し合っている際に、「うちの会社って〇〇の計画は立てているけど、それを現場で実施するための戦略が弱いよね」という意見がありました。これを聞いて、「これが SAMP（戦略的アセットマネジメント計画）か！」と思わずアセットマネジメントを思い出しました。SAMP については、用語としては理解していたつもりですが、正直なところ、具体的にイメージできていない部分がありました。それがここにきて、なぜ SAMP が重要なのか、がようやく腹落ちした気がしました。具体的にどのように戦略を立てていくのかはこれからの課題となりますが、JIS Q 55001 を改めて読み返し、現在の業務の参考にしようと思った瞬間でした。

現在の私にとっては会社そのものがアセットポートフォリオであり、そこで活躍する社員や技術等がアセットとなります。社員一人

一人がその能力を発揮するとともに、私生活も充実させていくためには、組織として、人材というアセットをどのようにマネジメントしていくか、が重要であり、JIS Q 55001 のアセットマネジメントの考え方は大いに活用できると感じています。

現在、この JAAM ジャーナルを手にとってくださっている方は、恐らくインフラ関連やエネルギー関連等、建設コンサル分野を主としている方が多いのではないかと思います。アセットマネジメントはそういった分野で非常に有効な手段となりますが、それと同時に身の回りのすべてのことに活用できる考え方です。CAMA、JCAM の資格保有者が増え、業務をはじめとする様々な場面でアセットマネジメントを活用する仲間が増えていくといいなと思っています。

よこやま なつき／2010年株式会社バスコへ入社。都市計画コンサルタント業務に従事し、本社企画部を経て2020年より3年間 JAAM事務局へ出向。JIS Q55002改正原案作成や資格試験実施に携わる。現在はバスコにて組織開発等に取組む。